|  |
| --- |
| 脳原性運動機能障害用 |
| （該当するものを○で囲むこと）  １　上肢機能障害  ア　両上肢機能障害  <結びテスト結果>  １度目の１分間　　　　　　本  ２度目の１分間　　　　　　本  ３度目の１分間　　　　　　本  ４度目の１分間　　　　　　本  ５度目の１分間　　　　　　本  計　　　　　　　　　本  　　イ　一上肢機能障害  <５動作の能力テスト結果>  ａ　封筒をで切る時に固定する。　　（・可能　・不可能）  ｂ　財布から硬貨を出す。　　　　　　（・可能　・不可能）  ｃ　傘をさす。　　　　　　　　　　　（・可能　・不可能）  ｄ　健側のを切る。　　　　　　　　（・可能　・不可能）  ｅ　健側のそで口のボタンを留める。　（・可能　・不可能）  　２　移動機能障害  <下肢・体幹機能評価結果>  　　ａ　つたい歩きをする。　　　　　　　 （・可能　・不可能）  　　ｂ　支持なしで立位を保持し、その後  　　　１０ｍ歩行する。　　　　　　　　　 （・可能　・不可能）  ｃ　から立ち上り、１０ｍ歩行し　 （・可能　・不可能）  　再びに座る　。　　　　　　　　 　　　　　　　　秒  ｄ　５０ｃｍ幅の範囲内を直線歩行する。（・可能　・不可能）  ｅ　足を開き、しゃがみこんで再び立ち上がる  （・可能　・不可能）  注　この様式は、乳幼児期以前の非進行性の脳病変による運動機能障害に用いる。 |

|  |
| --- |
| 3345備考  　上肢機能テストの具体的方法  　ア　結びテスト  　　事務用とじ（概ね４３ｃｍ規格のもの）を使用する。  ①　とじを机の上、被験者前方に図のように  置き並べる。  ②　被験者は手前のから順にの両端をつまんで、  軽くひと結びする。  注　○　上肢を体や机に押し付けて固定してはいけない。  　　○　手を机上に浮かして結ぶこと。  ③　結び目の位置は問わない。  ④　が落ちたり、位置から外れたときには検査担当者が戻す。  ⑤　は検査担当者が随時補充する。  ⑥　連続して５分間行つても、休み時間を置いて５回行つてもよい。  イ　５動作の能力テスト  ａ　封筒をで切る時に固定する  　　患手で封筒をテーブルの上に固定し、健手で鋏を用い封筒を切る。  　患手を健手で持って封筒の上にのせてもよい。封筒の切る部分をテーブルの端  から出してもよい。はどのようなものを用いてもよい。  ｂ　財布から硬貨を出す  　　財布を患手で持ち、空中に支え（テーブル面上ではなく）、健手で硬貨を出す。ジッパーを開けて閉めることを含む。  ｃ　傘をさす  　　開いている傘を空中で支え、１０秒間以上まつすぐ支えている。立位では  なく座位のままでよい。肩に担いではいけない。  ｄ　健側のを切る  　　大きめの切り（約１０ｃｍ）で特別の細工のないものを患手で持つて行う。  ｅ　健側のそで口のボタンを留める  　のりの効いていないワイシャツを健肢にそでだけ通し、患手でそで口のボタ  ンをかける。女性の被験者の場合も男性用のワイシャツを用いる。 |
|  |